

かんたん算数授業づくりシート

誰でも **10分～15分** で作成

『かんたん算数授業づくりシート』に、本時のめあてや考えさせること、問題との出合わせ方、振り返りで児童に書かせたい記述等を書き込めば明日の授業づくりの設計が完成します。
板書計画にも活用できます。

作成の手順

(最低限必要な記入事項)

①→②→⑤→⑦ (⑦→⑤)

『かんたん算数授業づくりシート』

□ 1時間の**授業構想**シート (作成時間 約10～15分)

(/)も明記

マニュアル

単元名

まずは、この1時間で何を学ばせるのか

①めあて

(教えること)

その時間に教えなければならないこと(子どもの目標、めあて等)

- 指導書の本時の目標を参考に書く。
- 身に付けさせる力が分かるように書く。

学ばせることが決まれば、何をどのように考えさせるのか

②考えさせること

(メタ認知的知識)

本時で考えさせること(発問、子どもの反応等)

- 本時で児童に考えさせることを書く。本時の問題だけでなく、他の問題に出合ったときにも活かせる力(一般化できる力)として書く。
- 教師の発問や子どもの反応、つぶやきを書く。

解いてみたいいやってみたいなの気持ちを持たせる

③問題との出会い

- ・ 必然性(解きたい)
- ・ 驚き
- ・ 既存の知識とのズレ
- ・ 前時とのつながり

学習意欲を引き出す、主体的な学び手を育てる導入の工夫(問題提示の具体をかく)

- 解いてみたいと思う問題の出し方を書く。
- 前時までの問題との違いを意識させるような提示の工夫を書く。
- 前時とのつながりを大事にする。例えば児童の振り返りの紹介から始めるといった工夫を書く。
- 情報過多、情報不足による問題提示の工夫を書く。

先生が言うから解くのではなく

インタラクティブ(双方向)

④導入から展開へ

のつながり

主体的・対話的な「学びあい」の具体的な姿(綾小例)

- 公式など結論を先に示し、本当かどうかみんなで確認していく。(Aパターン)
- 2つ以上の考え方を提示、比較し、自己決定させる場面を設定していく。(Bパターン)
- 問題把握から気付いたことを交流し、見通しの時間へとつなげていく。(Cパターン)
- 上記の3つのパターンの組み合わせ
- 子どもの反応や予想される答え、つぶやき等を書く。
- 教師の切り返しの言葉も書く。

※各校の授業スタイルに合わせて行う。

練習問題で定着度を把握

⑤まとめ

本時で押さえなければならないこと、定着を図る練習問題

- ①のめあてを基にし、本時のまとめを書く。
- 本時の学習内容を評価するための練習問題を設定する。
- 『感動算数』につながるまとめを意識する。

感想ではなく、学びの跡を書かせる

⑥練習問題

⑦振り返り

メタ認知育成につながる振り返り

- 感想ではなく、児童に書かせたい振り返りを予想して書く。
- 「～を使うと便利だ。」「～に気を付けよう。」といったメタ認知を意識した振り返りを書く。

常に、最初と最後を意識して